



和田っ子通信

令和5年度

No. 5

福井市和田小学校だより

発行日 令和5年 9月 1日(金)

〒918-8238

福井市和田 1-2-1

TEL:22-8817

FAX:22-6121

処暑～残暑厳しくとも、朝夕やがて涼し

猛暑が続いた夏季休業が明け、授業が再開しました。朝方には幾分涼しさも感じられるようになりました。

再開日の全校朝礼は体育館で行う予定でしたが、室温が高くなることを想定して、冷房の効いた教室で、放送を通して行いました。校長講話では、夏休みに書かれた児童の作文を紹介しながら、「ありがとう」について話をしました。ありがとうの語源「有り難い」は、「人の生を享くるは難く、やがて死すべきもの。今いのちあるは有り難し」つまり「いのちの尊さに感謝して、精一杯生きよう」ということから生まれたそうです。

また、「ありがとう」には自他共に幸せになる働きもあるようです。これから和田小学校が「ありがとう」の言葉でいっぱいになることを願ってやみません。

まだまだ暑い日が続きます。また、コロナ感染症もなかなか収まる気配を見せません。本校の教育活動では、今後も安全・安心に心がけ、熱中症防止対策に加え、基本的な感染対策(手洗い・咳エチケット・換気等)を怠らず、感染防止にも努めたいと思います。ご家庭や地域でもご協力をお願いします。(文責：勝木)



ある日の出来事から

みんなで広げよう、やさしさの輪を！ ～ 4年生総合「認知症サポート」～

4年生は、総合的学習の時間に、福祉について学んでいます。

7月4日、「みんなで広げよう！やさしさの輪 ～私たちにできること～」をテーマに、包括支援センターの社会福祉士の方から、認知症サポートについて話を聞きました。ここでは、「認知症」という病気についての正しい理解と、ふれ合い方について学びました。

話を聞いた後、センターの方々の寸劇を通して、思いやりの心をもち差別や偏見をもたないことの大切さについて、より理解を深めたようです。



赤大豆は、どのように育つのかな？ ～ 3年生総合「赤大豆の種まき」～

3年生は、総合「大好き!! わたしたちのまち」をテーマに、和田地区の宝となる「人・もの・こと」を調べています。7月4日、中庭の畑で赤大豆の種まきをしました。

昨年、赤大豆の収穫からの学びでしたが、今年は生長を観察したいと思います。児童は、ワンダフル農園や公民館の方から赤大豆の説明と種のまき方を教わりました。そして代表児童がまきました。

猛暑の夏休みでしたが、水やりの甲斐あって、すくすくと大きくなっています。今後の赤大豆の生長が楽しみです。



歯みがき名人のように・・・

～ 保健委員会 ふれあい集会 ～

7月12日、保健委員会による「歯を大切にしよう集会」がありました。まず、5年・6年生の中で、学校歯科医の先生に選ばれた歯みがきの上手な児童を「歯みがき名人」として10名表彰しました。そして、児童は、名人から歯みがきのコツを教えてもらいました。「朝昼晩、必ずみがく」「一本一本丁寧にみがく」「おかしを食べたら必ず歯をみがく」等、基本的なことですが、大事なことを教わりました。

最後のクイズでは、「虫歯になりやすいのは、口が乾燥するからいつも口が開いている人が多い」とか「前歯と奥歯で虫歯になりやすいのは、奥歯」など、楽しみながら知識を深めました。



相手も自分も守る、強い心で！

～ 6年生「ひまわり教室」～

7月14日に行われた「ひまわり教室」では、6年生が福井警察署の方から話を聞きました。はじめに「いじめをしない、させない、許さない」ことに関連して、「言葉は、力にも凶器にもなる」ところから、自分が言われてもやられても、自分から嫌なことを言ったりやったりしないとの話がありました。また、SNSによるネット依存の危険性についての話もありました。そして、自分でしっかり考えて行動することや、誘惑に負けない強い心をもつことの大切さについて、学びました。

「ルールを守る」というと、堅苦しく感じがちですが、みんなが安全で楽しい生活を送るためのものであり、自分を守ることになるとの認識を新たにしました。



ふれあいグループの絆を深めよう

～ 第3回ふれあいタイム～

7月19日、今年度、3回目のふれあいタイムがありました。3回目ということで、6年生のリーダーの表情にも笑顔がみられ、進行に慣れたのか余裕すら感じられました。遊びの内容も、体育館では「しっぽ取り」教室では、「ボウリング」や「ジャンケン列車」、「3ヒンクイズ」、記憶をたどって元の絵をかくゲーム、ジャンケンに負けると乗っている新聞紙が小さくなる「新聞じゃんけん」等、みんなが楽しめる工夫がされていました。メンバーの児童も和気あいあいと楽しんでいました。学校じゅうが笑顔と歓声でいっぱいになりました。



和田小学校のあいさつ名人を目指して

～ あいさつ運動強化週間～

8月28日からの3日間、「成和中学校区 あいさつ運動強化週間」として、生活委員会を中心に取り組みました。児童は、「あいさつピラミッド」カードを使って目標をクリアしながら、あいさつ名人をめざしました。

「家族、友だち、先生、地域の人へのあいさつ」や「伝わる声で二言あいさつ」等が、主なめあてです。

暑さを吹き飛ばすくらいの元気なあいさつが響き渡りました。



校長室から

不便”益”という考え方 ～不便だから考える～

スマホが登場し、私たちの生活は劇的に便利で効率的になりました。今後もChat GPTやIOT等の登場でさらに便利で効率的な社会となるでしょう。このこと自体はありがたいことですが、他方で私たちは「自分で考える」「自分で工夫する」機会が少なくなっているのではないかとこの見方もあります。「自分で考え、行動する力」の育成がめざしている学校は、どう向き合えばいいのでしょうか。川上浩司教授（京都先端科学大学）が唱える「不便益」についてご紹介します。

「不便益」とは「不便」と思われがちなことに「益」を見いだすことを指します。人は、不便さに引っかかり、考え始め、工夫しようとしします。そのために人と話すので、場も活性化します。ただ不便であれば何でもよいというわけではなく、「不便であることの益」がある一方で「不便であることの害」もあり、逆に「便利であることの益」もある一方で「便利であることの害」もあります。



学校における「不便益」は、①主体性がもてる、②工夫ができる、③発見できる、④対象が理解できる、⑤安心・信頼できる、⑥上達できる、⑦自分だけ感、⑧能力の低下を防ぐ、という八つの「益」が考えられます。

学校での生活や教育活動は、まさに「不便」を通して、子供の能力を高めていくことであるといえます。不便な状態を何とかしようと、「自分事」として主体的になり、工夫し、理解し、上達し、できたものに「自分だけ感」を感じるのです。また、「学習」は、自分が変わることを実感を与える作業です。人は、学ぶことによって変容しますが、いつの間にか変わっている、その実感は感じられません。「あのときこうやって学んだから、今、自分は変わったんだ」という実感を伴った記憶こそが重要なのです。つまり、それが学習であり、成長への気付きであるのです。そのため、授業では、児童が興味を持てる体験や仕掛けが必要です。理想をいえば、わかりにくく、引っかかりが多くて、自分で調べようという気になる、または引っかかって、質問がしたくなるような授業を、本校でも目指していきたいと考えています。そして、不便なものを古いものとみなすのではなく、まさに能動的になれる余地があると考えて、「これからつくり込んでいく」という意欲や姿勢を大切にしていきたいと思います。

(参考：川上浩司氏「不便だから、考える」)

